

令和4年4月

NETIS登録申請書類の作成ポイント

※申請書類の作成にあたって留意点を記載していますので、参考として下さい。

九州技術事務所

◆申請書類作成の際のポイント◆

申請書類の作成の際のポイントは以下のとおりです。

- ① 誰もが理解できるように**専門用語**をできるだけ**使用しない**。どうしても使用せざるを得ない場合は、用語の説明を記載する。
- ② 長々とした文章ではなく、**簡潔かつ明確**に記載する。
- ③ 内容について**実績や試験などで確認されたこと以上のことは記載しない**。特に、数値などについては、全て資料にて確認を行いますので、誇大表示した記載は行わないで下さい。
- ④ 技術の原理など**イメージ図**等を添付すると分かり易い。
- ⑤ 従来技術との比較において**経済性の内訳**については、**標準積算基準を参考とし、従来技術も記載**して下さい。標準積算基準にない技術については、**見積り**を作成して下さい。

◆記載例◆ 様式2の書き方のポイント【全般】

The screenshot shows the NETIS website interface. At the top, there is a navigation bar with the NETIS logo and the text '新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM'. Below this, there are several menu items: '維持管理技術ページ', '震災復旧・復興支援技術ページ', and 'マニュアル / FAQ'. A yellow box contains the text '登録申請書作成 活用効果調査表作成'. Below the navigation bar, there is a row of four icons with labels: '一時保存', '印刷・プレビュー', '受付窓口へ提出', and '提出用ファイルの保存【様式1】'. A blue button on the right says '申請時連絡先情報の変更'. Below the icons, there are two callouts: one pointing to the '一時保存' icon and another pointing to the '受付窓口へ提出' icon. At the bottom of the screenshot, there is a list of 29 numbered items, each in a blue box, representing different categories of information that can be registered.

NETIS 新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

維持管理技術ページ 震災復旧・復興支援技術ページ マニュアル / FAQ

登録申請書作成 活用効果調査表作成

一時保存 印刷・プレビュー 受付窓口へ提出 提出用ファイルの保存【様式1】

申請時連絡先情報の変更

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。
※「名称・分類」の「技術名称」に半角で次の特殊文字の入力があると保存、登録ができません。*/:*?*<>|

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
2. 「分類・区分」
3. 「キーワード」「開発目標」
4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」
7. 「新規性及び期待される効果」
8. 「効果写真」「効果表」
9. 「技術概要（アブストラクト）」
10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」
- 11-2. 「適用される基準」
12. 「留意事項」
13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」
14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
16. 「施工単価」
17. 「費用内訳表」「歩掛」
18. 「施工方法」
19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」
21. 「特許・実用新案」
22. 「第三者評価・表彰等」
23. 「実験等実施状況」
24. 「添付資料」
25. 「参考文献」
26. 「その他（写真）」
27. 「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」
28. 「震災NETIS」
29. 「維持管理NETIS」

こまめに
一時保存

内容確認のヒアリングを予約したのち、「受付窓口へ提出」を押してください。

✓ 120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。

以降、項目ごとに記載例を示しポイントを説明します。

◆ 記載例 ◆ 1. 技術名称等 2. 分類・区分 3. キーワード等

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

「技術名称」	「副題」	「技術開発年」	「記入年月日」	「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」	「開発目標」
2. 「適用される基準」		12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」		14. 「従来技術との比較（品質・安		
「特許・実用新案」		22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」	25. 「参考文献」	26.	

技術名称	高耐久性シートを使用した防草シート「〇〇〇〇〇〇」
技術名称	新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書（様式1）に記載した技術名称と同様として下さい。
副題	耐久性を向上させた防草シートで維持管理コストを低減
副題	申請する技術の用途等を明確にした副題を記入して下さい。

【技術名称】

- 特徴がイメージ可能な一般名称+「製品の固有名称」。
- 固有名称はフルネームで記載。
- 技術名称は基本的に変更できないため、更新等も考慮する。
- 他の商標登録又は既にNETIS登録された技術名称と同一でないか確認する。
- 「新」を付けたり、型番や会社名を入れない。

【副題】

- 技術名だけでは不明な技術内容を補完する内容とする。
- 現場等で役に立つ特徴を具体的に記載。
- 特に技術の「売り」になっている内容とする。

分類・区分 LV1から順に選択してください。（新技術が主に活用されるを分類1に入力してください。）分類一覧をダウンロード

分類1	レベル1 道路維持修繕工	レベル2 道路除草工	レベル3 防草工	レベル4 マットタイプ
分類2	レベル1 河川維持	レベル2 堤防除草工	レベル3 防草工	レベル4 マットタイプ

【分類】

- レベル4まで選択できるものはレベル4まで選択する。

キーワード

安心・安全
 環境
 情報化
 コスト削減・生産性の向上
 公共工事の品質確保・向上

伝統・歴史・文化
 リサイクル

【キーワード・開発目標】

- 最大3項目を選択。
- 活用の効果との整合を図る。
- 利用者が検索しやすいキーワードとする。
- 自由記入は、様式2に記載された文言、語句の同意語があれば記述する。

◆ 記載例 ◆ 4. 開発体制等

開発体制 ○共同研究 (産・官・学) ○単独 (産) ○単独 (官) ○単独 (学)
 ●共同研究 (産・産) ○共同研究 (産・官) ○共同研究 (産・学)

開発会社 ○○○○ (株)、(株) △△△△△△△△

問合せ先 (技術)

会社名 ○○○○ (株)

部署名 開発計画部

担当者 福岡一郎

郵便番号 811-1100

住所 福岡県福岡市○○区○○1-2-3

TEL 092-111-○○○○

FAX 092-111-○○○○

E-MAIL fukuoka-i@○○○○.co.jp

URL https://www.○○○○.co.jp

問合せ先 (営業)

会社名 ○○○○ (株)

部署名 技術開発推進部

担当者 佐賀二郎

郵便番号 811-1100

住所 福岡県福岡市○○区○○1-2-3

TEL 092-111-○○○○

FAX 092-111-○○○○

E-MAIL saga-j@○○○○.co.jp

URL https://www.○○○○.co.jp

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

【開発体制】

- 技術の開発された体制が単独か、共同開発かを選択する。

【開発会社】

- 開発会社は会社名、学校名(教授名共)、官公庁(所属部署共)等を全て記述する。
- 共同開発の場合、申請者以外の開発者からのNETIS登録の同意書が必要。
- 海外の開発者の場合は国内で権限保有する者であること。

【問合せ先】

- 技術担当者は、技術と申請内容を一番理解した者とする。
- E-MAILアドレスは必ず記載し、半角で入力する。
- URLは取得していなければ記述不要とする。
- 営業は、営業担当者もしくは記載内容を二番目に理解した者とする。

【問合せ先(その他)】

- 共同開発者で、技術、営業にも記載されなかった担当者を記述する。
- 協会員や、各支店も記載可能であるが、住所、電話番号、担当者が変更された場合は、その都度、更新申請を行う必要がある。

問合せ先 (その他)

項目追加

会社名	部署名	担当者	郵便番号	住所	TEL	FAX	E-MAIL	URL	削除
□□□□ (株)	営業部	大分三郎	870-0049	大分県大分市○○町1-1-1	097-532-○○○○	097-532-○○○○	ooita-s@□□□□.co.jp	https://www.□□□□.co.jp	削除 編集

◆ 記載例 ◆ 5. 概要 6. 概要写真等

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

概要 NETISに掲載する概要です。全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①何について何をする技術なのか？

道路等の除草作業において、優れた防草性と耐久性を有する〇〇系の防草シート

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②従来は、どのような技術で対応していたのか？

肩掛式機械による除草工(年1回)

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③公共工事のどこに適用できるのか？

法面や路肩・中央分離帯・植栽帯等の防草対策

誤字チェック
ができます。
記入後、click

【概要】

①何について何をする技術なのか？

- ・ 1行程度で箇条書きとする。
- ・ (記述例) 道路の路肩や法面等を耐久性の高い〇〇〇〇シートで覆うもので防草対策に使用

②従来はどのような技術で対応していたのか？

- ・ 従来技術とは申請技術の比較対象となる技術で、評価する際の比較基準となる。
- ・ 従来技術は標準積算基準や一般的に使用されているものから選定する。
- ・ 過去に自社で開発されたもの、自他社においてNETIS登録されている技術は不可

③公共工事のどこに適用できるのか？

- ・ 1行程度で箇条書きとする。
- ・ (記述例) 「道路除草工(肩掛式機械除草、年1回)」、「発動発電機を使用した電源確保」
- ・ 公共工事で適用できる工事を記述する。
- ・ その他複数にあれば「・」で区切って簡潔に記述する。
- ・ (記述例) 「道路路肩や法面の防草」

概要写真 この画像がサムネイルに設定されます。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

または

概要写真及びイメージ図

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

概要表

表による表現も可能。

見出し 列数 0 行

品名	仕様	規格
・・・シート	色：〇〇/□□	1×6m
・・・テープ	-	10cm×20m/巻
アンカーピン	〇型/□□型	φ6×L250

概要表タイトル

製品規格・材料

【概要写真】

- ・ 写真及びイメージ図は概要が確認できるものとする。
- ・ 写真等はユーザーが技術の特徴を理解しやすいようにコメント補足など工夫する。

- ・ 写真及びイメージ図はGIFあるいはJPEG形式の画像ファイルとする。
- ・ 画像の横幅は最大でも、横600ピクセルに収まるようにする。

概要写真タイトル

製品概要

◆ 記載例 ◆ 7.新規性及び期待される効果 8.効果写真等

新規性及び期待される効果 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①どこに新規性があるのか？（従来技術と比較して何を改善したのか？）

- ・除草方法を、肩掛式機械による除草工から防草シートに変えた。

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**, **修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②期待される効果は？（新技術活用のメリットは？）

- ・除草作業が不要となるため長期的な維持管理費を軽減できる。
- ・○色と□色が選べ、景観に配慮した施工が可能となる。

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**, **修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③その他

- ・特になし

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

【新規性及び期待される効果】

★できるだけ具体的にポイントのみを簡潔に記載する。

①どこに新規性があるのか？

- ・ 従来技術との違い(新しい技術)を簡潔に記述する。
- ・ その他複数にあれば「・」で区切って簡潔に記述する。

②期待される効果は？

- ・ 上記の新規性に対して具体的なメリット等を箇条書きに記述する。

③その他

- ・ 開発、コンセプトに至った経緯や、メリットの詳細、説明の必要がある着目点などがあれば、文字数の許す範囲で記述する。

効果写真

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または **新規性の写真及びイメージ図**

ファイルの選択 文件が選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまで

効果写真タイトル 製品の新規性

【効果写真】

- ・ 写真及びイメージ図は新規性で記載した内容が確認できるものとする。
- ・ 写真等はユーザーが理解できるように工夫する。

効果表 見出し 列数 0 行数 1

表による表現も可能。

項目	物性値	試験方法
質量 (g/m ²)	4,000	JIS A
厚さ (mm)	4.0	JIS A
引張強さ (N/cm)	80以上	JIS A

効果表タイトル 製品の物性

◆記載例◆ 9.技術概要（アブストラクト）

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

技術概要 (アブストラクト) 検索結果に表示する技術の概要です。全角127文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

本技術は防草工に関する技術である。道路等の除草作業において、優れた防草性と耐久性を有する□□系の防草シートで、従来は、肩掛式機械による除草工(年1回)に対応していた。本技術の活用により、除草作業が不要となり、長期の維持管理コストを削減できる。

誤字チェック 凡例： チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

技術概要（アブストラクト）

全角127文字以内で記入して下さい。

技術概要は、申請技術の特徴が明確にわかるように『概要』、『新規性及び期待される効果』で記述した内容を簡潔にまとめて下さい。

例) 本技術は、土留め・河川護岸・止水壁工事に用いる鋼矢板であり、従来は、U型鋼矢板に対応していた。本技術の活用により、

材料費・施工費の縮減や工期の短縮を期待できる。

【概要(アブストラクト)】

アブストラクトとは、NETISで技術を検索した際に、新技術名称とともに表示させるものです。

- 「概要」「新規性及び期待される効果」で記載した内容を簡潔にまとめる。
- 何の技術で、どのような特徴があり、どのような効果があるのかを記述する。
 - ① 文頭には国土交通省積算基準の標準工種を明記する。
 - ② 従来技術をどのように改善したのか簡潔に記載する。
 - ③ 多用途で災害復旧等でも活用できる場合は、文末にその旨を記載する。
- 記述文字数が全角で127文字以内で収める。

◆ 記載例 ◆ 10. 適用条件

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

適用条件 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①自然条件

・雨天時、強風時は施工不可

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②現場条件

・作業スペースとして○m×○m程度必要

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③技術提供可能地域

・全国

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④関連法令等

・特になし

【適用条件】

①自然条件

- ・ **気温や気象、土質条件等に関する制約を具体的に記述する。**
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

②現場条件

- ・ **作業スペースや支障物件等の制約条件を具体的に記述する。**
- ・ (記述例) 作業スペースとして○m×○m程度必要、使用機械の大きさ□m×□m

③技術提供可能範囲

- ・ **新技術を適用できる地域について、具体的な都道府県名又は地区と理由を記述する。**
- ・ 制約がない場合は「全国」とする。
- ・ (記述例) 九州地区限定(製品の製作工場が九州であるため)

④関係法令等

- ・ **法令上厳守しなければならない条件を記載する。**
- ・ 労働安全衛生法等は特に記述しない。
- ・ (記述例) 大量に保管する場合は各消防署への届け出が必要となる。
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。
- ・ 仮設や安全施設等は労働安全衛生法および労働基準監督署への確認を行うこと。

◆記載例◆ 11.適用範囲 11-2.適用される基準

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

適用範囲 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①適用可能な範囲

・勾配が1：1より緩い法面、平場

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②特に効果の高い適用範囲

・交通量が激しく、維持管理が困難な場所

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③適用できない範囲

・車両侵入箇所、常時歩行路

【適用範囲】

①適用可能な範囲

- ・ 施工量、規模、対象土質、対象工種等を具体的に記載する。
- ・ 実績や試験などで確認できる範囲とし、誇大標示は行わない事。

②特に効果の高い適用範囲

- ・ 適用可能な範囲で特に効果の高い条件を具体的に記述する。
- ・ 技術のアピールポイントと整合するように記述する。

③適用できない範囲

- ・ 適用できない理由を具体的に記述する。
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

適用される基準 ①設計基準

なし

協会等の基準を適用

△△△△(株)「・・施設標準図集」(平成・・年・月)

独自基準あり

「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および

※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルを選択してください。

【適用される基準】

①設計基準 ②積算基準 ③施工管理基準

- ・ 技術の活用の際に関係する準拠及び引用された指針、示方書、基準類等があれば記述する。
- ・ 公の基準と独自の基準を区別して記載する。
- ・ 発行年、発行元、項目、項数も併記する。

◆ 記載例 ◆ 12. 留意事項

留意事項 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①設計時

- ・ 固定ピンの間隔は1m
- ・ 防草シートの重ね幅は10cm以上

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②施工時

- ・ 事前に防草シート敷設箇所を凹凸の無いよう整地し、浮石や鋭利な切り株等は除去する。
- ・ 防草シートの重ね部および構造物端部はシーリング接着する。

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③維持管理時

- ・ 防草シートの上に土壌の堆積や雑草が発生した場合は除去する。
- ・ 防草シートに破損（破れ、穴あき等）が発生した場合は補修する。

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**、**修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④その他

- ・ 特になし

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

【留意事項】

①設計時

- ・ **設計時または技術の活用を検討する際に留意する事があれば記述する。**
- ・ 一般的な内容ではなく、この技術に特化した内容を記述する。
- ・ (記述例) コンクリート標準示方書に準拠した設計となる。
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

②施工時

- ・ **施工時に留意してもらいたい内容を記述する。**
- ・ 一般的な内容ではなく、この技術に特化した内容を記述する。
- ・ (記述例) 製品の設置においては「施工マニュアル」に従い施工する。・製品を高所から落下させる等の強い衝撃を与えない。
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

③維持管理等

- ・ **施工者及び管理者にどういった点を維持管理、点検するかを記述する。**
- ・ この技術(材料など)を保管中に留意する点があれば記述する。
- ・ (記述例) 製品保管中は雨風のあたらないようにシート等で養生する。・製品の積み重ねは3段までとする。
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

④その他

- ・ **上記以外に留意する内容があれば記述する。**
- ・ 納入に期間が必要な場合は、任意の数量に対する時期の目安を記述する。
- ・ 特殊機械などの保有台数及び保有場所を記述する。
- ・ (記述例) 材料の保証期間として1年であるため、使用に留意する。
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

◆ 記載例 ◆ 13. 従来技術との比較（経済性・工程）

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

活用の効果

従来技術名 肩掛式機械による除草工(年1回)

経済性

向上 同程度 低下

変化値 -1744.4 %

従来技術と比較して材料単価は効果となるが、ランニングコストは安価となる。

工程

短縮 同程度 増加

変化値 -33.33 %

従来技術と比較して防草シートを敷設するため増加する。

【従来技術名称】

- 概要②で記述した従来技術と表現を合わせる。

【活用の効果】

- ✓ 根拠を明確にし、項目を極力絞り込むことで、技術の特徴が伝えやすくなります。
- ✓ 各項目とも同程度以外の場合に「比較の根拠」を記述する（同程度の場合は記述しない）。
- ✓ 比較の根拠は、文頭に「従来技術と比較して……」と記述する。

『経済性』

- 材料費、施工費等の理由を具体的に記載する（数値的根拠必要）。
- （記述例）従来技術と比較して材料単価が高価となるが、ランニングコストは安価となる。

『工程』

- ユニット化による短縮等の理由を具体的に記載する（数値的根拠必要）。
- （記述例）従来技術と比較して防草シートを敷設するため増加する。

活用の効果

変化値

「活用の効果の根拠」にて算出された値が変化値として自動的に表示されます。

経済性、工程の変化値について、従来技術名の横にある「活用の効果の根拠」のボタンを押して、必要事項を記入して下さい。

◆記載例◆ 13.従来技術との比較（経済性・工程）

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

活用の効果の根拠

経済性・工程の変化は以下を入力すると計算されます
数値は半角で入力してください

基準とする数量 単位

新技術の内訳追加

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	編集/削除
防草シート敷設工	タイプ〇〇	1000	m2	201.1	201100	見積り	削除 編集
防草シート材料費	W=1,000m m・t=5mm	1200	m2	1000	1200000	見積り・ロス率20%	削除 編集
道路除草工	肩掛け式	1000	m2	80.32	80320	標準積算基準	削除 編集

合計 1481420 円/1000[m2]あたり

従来技術の内訳追加

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要	編集/削除
道路除草工	肩掛け式	1000	m2	80.32	80320	標準積算基準	削除 編集

合計 80320 円/1000[m2]あたり

工程：新技術 日 工程：従来技術 日

【活用の効果の根拠】

- 基準とする数量は、下記を参考に設定し、一式としない。(切りの良い数量とする)
- ①標準積算基準の単価表における単位数量
- ②応急復旧関連技術では2日を基本
- ③災害復旧関連技術では1ヶ月を基本
- ④非常用関連技術では3日を基準
- ⑤仮設および安全施設関連技術では6ヶ月を基本
- ⑥その他指針文献における単位数量
- ⑦既NETIS登録技術の事例
- ⑧その他(上記に該当しない場合)

【新技術、従来技術の内訳】経済性根拠

- 項目は施工費まで含めて詳細に記述する。
- 仕様は可能な限り詳細に記述する。
- 数量は基準とする数量、又は対象となる数量を記述する。
- 摘要には見積り対応なのか、標準積算、協会歩掛等を明確にする。
又、対象数量の計算を入れる事も可能です。
(積算の根拠資料が必要です)

【工程】

- 工程は基準とする数量が施工可能な日数を入力。
- 工程は必ず日数を入れる。(0日とはしない)
(日数の根拠資料が必要です)

◆記載例◆ 14.従来技術との比較（品質～環境）

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

品質	<input checked="" type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	従来技術と比較して雑草の繁殖を抑制できる。	根拠資料の入力
安全性	<input checked="" type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	従来技術と比較して除草作業の縮減により事故の発生リスクが低減できる。	根拠資料の入力
施工性	<input checked="" type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	従来技術と比較して定期的な除草作業が不要となる。	根拠資料の入力
周辺環境への影響	<input type="radio"/> 向上	<input checked="" type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	(同等の場合は記入不要)	根拠資料の入力
自由項目 <small>(全角20文字)</small>	<input type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	比較のポイント	根拠資料の入力
自由項目 <small>(全角20文字)</small>	<input type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	比較のポイント	根拠資料の入力

【活用の効果】

- ✓ 根拠を明確にし、項目を極力絞り込むことで、技術の特徴が伝えやすくなります。
- ✓ 各項目とも同程度以外の場合に「比較の根拠」を記述する(同程度の場合は記述しない)。
- ✓ 比較のポイントは、文頭に「従来技術と比較して……」と記述する。

『品質』

- 強度や耐久性等の向上の場合は数値的根拠が必要。
- (記述例) 従来技術と比較して雑草の繁殖を抑制できる。

『安全性』

- 原則として具体的な内容を示せる場合に向上とする。
- (記述例) 従来技術と比較して毎年の除草作業が不要となるため、事故の発生リスクが低減できる。

『施工性』

- 原則としてユニット化など理由が具体的に示せる場合のみ向上とする。
- (記述例) 従来技術と比較して毎年の除草作業が不要となる。

『周辺環境への影響』

- 振動、騒音など具体的な環境に関する項目について記述する(数値的根拠必要)。
- (記述例) 従来と比較して雑草の繁殖を抑制できるため、周辺への影響を低減できる。

【根拠資料の登録】

「品質」等各項目の根拠資料を入力します。
(別ウィンドウ)
※詳細は24ページ参照

【自由項目】

- 申請技術の技術特性に応じた任意の技術的事項を2項目挙げることができます。(ただし、評価項目(経済性～環境)以外の技術的項目とし、その妥当性については、申請窓口を確認を受けてください。)

◆ 記載例 ◆ 15. アピールポイント等、コストタイプ

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

その他、技術のアピールポイント等 (全角127文字)

防草シートは・・・年程度の耐久性を有している。

【その他、技術のアピールポイント等】

- 従来技術の課題とされていた解決内容や、新技術の「売り」を箇条書きにする。
- 記述文字数が全角で127文字以内で収める。

【新技術のコストタイプ】

- コストタイプの「損益分岐型:A」「並行型:B」「発散型:C」「サイクルコスト型:D」の「+/-」、「I/II」を選択する。なお、Dタイプを選択の場合は別表に10年後までのコストを入力する。

新技術のコストタイプ

新技術 ————
従来技術 ————

サイクルコスト型：D

基本的にはAタイプと同様であるが初期投資コストと経年との関係でサイクルコストとしての特性を表すパターン

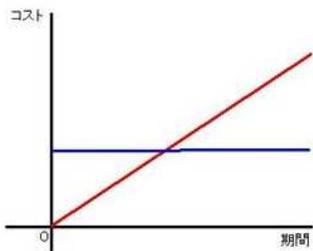
※維持管理が関係する技術など

※サイクルコスト型を選択する場合は以下の表を入力してください。

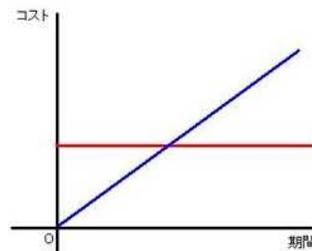
サイクルコスト (円/単位あたり)

	1年	3年	5年	10年
新技術	1481420	1481420	1481420	1481420
従来技術	80320	240960	401600	803200

◎ D(I)型



○ D(II)型



◆記載例◆ 16.施工単価 17.費用内訳表、歩掛

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

施工単価 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

比較に当たっての条件

○施工条件

福岡県かにおける平面部1,000m²の防草対策

(新技術：シートt=5mm、従来技術：道路除草工(肩掛け式)年1回)

○積算条件

【共通】単価適用年：令和4年度

【新技術】施工歩掛自社見積り

【従来技術】土木工事標準積算基準書(令和4年度)

【施工単価】

- 活用の効果で積算された条件を具体的に記載する。
- 積算された地域、年月及び使用した参考資料の採用月を記述する。
- 施工条件等により価格が変わる場合は、一般的な施工条件で、標準的な規模で施工した場合の施工条件及び単価等を記述する。
- 経済性でコスト縮減がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記述する。

費用内訳表
タイトル 防草シート単価表

費用内訳表

見出し 列数 1 行数 1

製品	規格	数量	単位	単価(円)	備考
〇〇〇-3	1m×30m×3mm	1	巻	24,000	
〇〇〇-5	1m×25m×5mm	1	巻	25,000	
〇〇〇-10	1m×20m×10mm	1	巻		

なし 標準歩掛 暫定歩掛 協会歩掛 自社歩掛

【費用内訳表】

- 新技術の単価及び損料等がわかるような記述とする。
- 製品等で各バリエーションの製品単価を記述しても構わない。
- 施工条件等により価格が変わる場合は、一般的な施工条件で、標準的な規模で施工した場合の施工条件及び単価等を記述する。

【歩掛表】

- 該当するものを選択する。
- 標準歩掛とは、国土交通省土木工事標準積算基準書・市場単価等である。
- 暫定歩掛とは、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領に基づく新技術の 暫定歩掛である。
- 協会、自社歩掛の場合は、歩掛が分かる資料を添付する。

◆ 記載例 ◆ 18. 施工方法 19. 今後の課題

施工方法 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① 除草
・ 草刈り機を用い10mm以下に刈り込む。

② 防草シート敷設
・ 防草シートを被せ、専用ピンにて仮留めする。

③ アンカーピン設置
・ アンカーピンを1m間隔で打設する。

④ 仕上げ
・ 専用テープにてアンカーピンの頭部およびラップ箇所を目張りする。

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**, **修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工方法写真

ファイルを選択
または
ファイルの選択

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまで

**施工方法写真
タイトル** 施工手順

① 除草

② 防草シート敷設

③ アンカーピン設置

④ 仕上げ

施工方法の写真、イメージ図など

今後の課題とその対応計画 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① 今後の課題
・ 防草シートの更なる高強度化

誤字チェック 凡例： **チェック対象文字**, **修正候補**

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 対応計画
・ 製造ラインの機械化

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

【施工方法】

- ・ 活用の効果で積算された条件を基に記載する。
- ・ 具体の施工方法を簡潔に記述する。
- ・ ①、②、③のように作業工程を順序よく記述する。
- ・ 施工機械等があれば名称と規格も記述する。
- ・ 付属製品等があれば使用数量等も記述する。

【施工方法写真】

- ・ 施工フロー写真およびイメージ図を活用し作業工程の確認できるものとし、番号を整合させる。
- ・ 従来技術と大きく作業工程が変わるようであれば、フロー図を利用し違いを明確にする。
- ・ 写真等にはコメント補足するなど分かりやすく工夫する。

【今後の課題とその対応計画】

① 今後の課題

- ・ 今後、改善する課題があれば記述する。
- ・ (記述例) 防草シートの高強度化
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

② 対応計画

- ・ 今後の課題での対応策を記述する。
- ・ (記述例) 製造ラインの機械化
- ・ 記述事項がない場合は「特になし」とする。

◆ 記載例 ◆ 20. 施工実績

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

施工実績 実績件数 (国土交通省)
※旧建設省、旧運輸省含む

国土交通省 件

国土交通省における施工実績 (20件まで)
※現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

実績追加

工事名	事業種類	地方整備局名	事務所	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集/削除
福岡〇号〇〇地区道路維持工事	一般工事	九州地方整備局	九州技術事務所	2021/04/01	2022/03/31	0123456	削除 編集

実績件数 (国土交通省以外)
※旧建設省、旧運輸省除く

その他公共機関 件

民間 件

国土交通省以外における施工実績 (20件まで)
※現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

実績追加

工事名	発注者 (種別)	発注者 (事務所名等)	施工開始	施工終了	CORINS登録番号	編集/削除
県道〇〇号線維持修繕工事	公共機関	〇〇県土整備事務所	2021/05/03	2022/01/31	6543210	削除 編集
九州道〇〇SA維持修繕工事	民間	NEXCO〇〇日本	2021/04/01	2022/01/31	987654	削除 編集

【実績件数】

- 開発年と関連性を付けた実績とする。
(国土交通省)
- 国土交通省の実績件数を入れる。
(国土交通省以外)
- その他の公共機関、民間別の実績件数を入れる。

【国土交通省における施工実績】

- 実績は正式な工事名がわかる工事のみを記述する。
- 事業種類は一般工事を選択する。
- 施工開始、終了は工事の全体工期の日付を記述する。
- CORINS番号は確認して記述する。(全て公共工事には番号があります)
- 業務実績の場合はTECRISの番号を記述する。

【国土交通省以外における施工実績】

- その他の公共機関は県市町村、独立行政法人での実績とする。
- 実績は正式な工事名がわかる工事のみを記述する。
- 発注者(種別)は「公共機関」「民間」を選択する。
- 発注者(事務所)は各自治体の事務所まで記述する。
- 発注者(事務所)で民間の場合は〇〇建設(株)等を記述する。
- 施工開始、終了は工事の全体工期の日付を記述する。
- CORINS番号は確認して記述する。(全て公共工事には番号があります)
- 民間にはJR、NEXCO等も含む。
- 民間の実績で個人の場合は名称を〇〇に変更しても構いません。

◆ 記載例 ◆ 21. 特許・実用新案

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

特許・実用新案		特許情報1		特許情報2	
特許番号	<input type="text" value="特許第987654 (申請名称)"/>	特許番号	<input type="text"/>		
特許	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 出願中	特許	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 出願中		
特許-通常実施権	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	特許-通常実施権	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し		
特許-専用実施権	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	特許-専用実施権	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し		
特許権者	<input type="text" value="〇〇〇〇 (株)"/>	特許権者	<input type="text"/>		
実施権者	<input type="text" value="〇〇〇〇 (株)"/>	実施権者	<input type="text"/>		
特許料等	<input type="text" value="製品価格に含む"/>	特許料等	<input type="text"/>		
実施形態	<input type="text" value="他社による施工可"/>	実施形態	<input type="text"/>		
問合せ先	<input type="text" value="〇〇〇〇 (株) 092-111-・・・"/>	問合せ先	<input type="text"/>		

【特許】

- 特許の「有り」「出願中」を選択し、ない場合は選択しない。
- 特許の「有り」「出願中」を選択した場合は、特許情報に特許番号又は出願番号を記述し特許及び出願の名称を()で記述する。
- 特許出願予定は特許情報に出願予定と記述する。
- 特許取得の場合、実施権を選択し、特許権者、実施権者、特許料、問合せ先も記述する。
- 特許権者が複数の場合、申請者以外の同意書を添付する。
- 特許料が必要な場合は特許料金を記述し、製品代等に含む場合はその旨記載する。

実用新案	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 出願中 <input type="radio"/> 出願予定 <input type="radio"/> 無し
有りの場合 ：特許番号	<input type="text" value="第123456号 (申請名称)"/>
実施新案- 通常実施権	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し
実施新案- 専用実施権	<input checked="" type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し
備考	<p>全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。</p> <input type="text" value="商標登録 第147963号 (名称)"/>

【実用新案】

- 実用新案の「有り」「出願中」「出願予定」「無し」を選択する。
- 実用新案の取得及び出願中の場合は番号を記述し、名称を()に記述する。
- 実用新案取得の場合は実施権を選択する。

【備考】

- 意匠登録や商標登録があれば番号と名称を記述する。

◆ 記載例 ◆ 22. 第三者評価・表彰等

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

第三者評価・表彰等

建設技術審査証明
建設技術番号、評価年月日、評価機関いずれかを入力すると残りが必須となります

建設技術番号

評価年月日

評価機関

URL

建設技術評価
建設技術評価番号、評価年月日いずれかを入力すると他方が必須となります

建設技術評価番号

評価年月日

URL

その他の制度等による証明1

制度の名称

番号

証明年月日

証明機関名称

証明範囲

URL

その他の制度等による証明2

制度の名称

番号

証明年月日

証明機関名称

証明範囲

URL

【第三者評価・表彰等】

- 「建設技術審査証明」や「建設技術評価」等を取得されている場合に記述する。
- 証明等が有効期限切れや、証明が範囲外であれば記述できないものとする。
- その他の制度等(他省庁の行っている制度)による証明や表彰をされた場合に記述する。

現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

項目追加

証明項目	試験・調査内容	結果	編集 削除
シート耐久性	耐候性試験 (UV試験)	〇年程度の耐久性があると認められる。	削 編

【証明項目】

- 「建設技術審査証明」や「建設技術評価」等を取得されている場合に記述する。

◆ 記載例 ◆ 23. 実験等実施状況

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

実験等実施状況 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

防草シートの耐久性試験

- ・試験実施日：令和〇年〇月〇〇日
- ・試験場所：□□□試験センター
- ・目的：防草シートの耐用年数を確認する。
- ・試験方法：JIS B・・・、△△△試験機
- ・規格値：20年以上（自社基準）
- ・試験結果：耐候試験（20年相当）後の引張強度は〇N/cmであり、試験前の強度の80%を確保していることから、性能を維持できることが確認できた。

実験等実施状況 写真

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または **試験状況写真**

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

実験等実施状況 写真タイトル

〇〇試験実施状況

実験等実施状況表

見出し 列数 1 行数 1

資料No.	試験前(N/5cm)	耐候性試験後(N/5cm)	低下率
1	1,223	958	78%
2	1,118	885	79%
3	1,008	825	85%
平均	1,116	920	82%

【実験等実施状況】

- ・ 技術の成立性、効果、機能の確認できる実験結果を記述する。
- ・ 技術の効果、成立性について、最低限必要な事を記述する。
- ・ 日付、場所、目的、実験方法、結果、考察等を明確に記述する。
- ・ 記載されている結果が、従来技術あるいは技術基準と比較した記述とする。
- ・ 基準類は下記を示す。
 - ①国土交通省通達などによる試験基準
 - ②各種指針等で定められた基準
 - ③JIS規格等で定められた基準
 - ④その他NEXCO等で定められた基準
 - ⑤学等と実証実験などにより定めた基準
 - ⑥工法協会等で定めた基準
 - ⑦開発に当たり企業独自で証明した基準
 - ⑧その他(試験内容記載)
- ・ 「耐久性」「耐用年数」「強度特性」など試験結果に基づき整理する。

【実験等実施状況写真、表】

- ・ 試験結果等は表や写真を利用し表現する事もできる。
- ・ 実験写真を使用する場合は、ユーザーがわかりやすいようコメント補足するなど工夫する。

◆ 記載例 ◆ 24. 添付資料 25. 参考文献

添付資料	添付資料1	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。 または 資料ファイル(PDF形式) <input type="button" value="ファイルの選択"/> ファイルが選択されていません
	タイトル	積算資料
	添付資料2	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。 または 資料ファイル(PDF形式) <input type="button" value="ファイルの選択"/> ファイルが選択されていません
	タイトル	リーフレット
	添付資料3	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。 または 資料ファイル(PDF形式) <input type="button" value="ファイルの選択"/> ファイルが選択されていません
	タイトル	施工実績一覧表
	添付資料4	

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

【添付資料】

- 「13.14.従来技術との比較」において「活用の効果」の根拠に必要な資料ファイル(PDF形式)を添付する。

例)

1. 積算資料・・・見積りなどコスト比較資料
2. リーフレット
3. 施工実績一覧表
4. 実証試験結果報告書
5. 現場状況写真
6. 製品仕様書
7. 施工要領書
8. 出来形管理表
9. 比較工程表
10. 独自技術資料
11. 参考01〇〇技術指針 など

- 「14.根拠資料の入力」に記載した添付資料名と整合させる。
- ここに記入する資料は、NETIS閲覧者からの申し立ての場合に提供できるものとする。

参考文献 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

参考とした文献があれば文献名を記載する。

【参考文献】

- 添付資料以外のもので、申請する新技術において参考にした文献を記述する。

◆記載例◆ 26.その他写真・その他ダウンロード資料

その他 ※写真や図などは、GIFあるいはJPEG形式の画像ファイルにしてください。
※画像の横幅は最大でも横600ピクセルにおさまるようにしてください。

その他写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

または

施工事例等写真

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真1
タイトル

施工事例01 (道路路肩)

その他写真2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

または

施工事例等写真

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真2
タイトル

施工事例02 (道路中央分離帯)

その他写真3

その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術設計マニュアル、積算基準等)

その他資料①

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

または

カタログ・リーフレットなど

ファイルの選択 ファイル…ていません

※ファイルはPDF形式のみとし、20MBまでのものとしてください。

タイトル

その他資料②

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

または

※記載ないものは入カシステム内の説明に従い記入してください。

【その他写真・タイトル】

- 施工事例などを添付する。

- 写真及びイメージ図はGIFあるいはJPEG形式の画像ファイルとする。
- 画像の横幅は最大でも、横600ピクセルに収まるようにする。

【その他ダウンロード資料】

- NETIS閲覧者がダウンロード可能な資料を添付する。

◆ 記載例 ◆ 27. 比較表

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

類似技術 (最大5件まで比較可能)			
類似技術の追加		類似技術のリセット	
NETIS番号	技術名称		比較する従来技術
QS-200000	高耐久防草シート「△△△△△△△」		肩掛式機械による除草工(年1回)
比較表	新技術	従来技術	既存のNETIS登録技術
	高耐久性シートを使用した防草シート「○○○○○○」	肩掛式機械による除草工(年1回)	高耐久防草シート「マクレーンシート」
工法概要	本技術は防草工に関する技術である。道路等の除草作業において、優れた防草性と耐久性を有する○○系の防草シートで、従	道路等の除草作業を、肩掛式機械による除草工(年1回)に対応する。定期的な除草作業が必要となる。	本技術は、除草工に寄与する技術である。道路等の除草作業において、優れた防草性と耐久性を有するアスファルト系の防草シートで、従来は、肩掛式機械による除草工(年1回)に対応していた。本技術の活用により、除草作業が不要となり、長期の維持管理コストを削減できる。
概略図		<p>ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または</p> <p>ファイルの選択</p> <p>登録済み写真名: ※画像サイズは2MBまでのものとしてください。</p>	
経済性	1,481,420円/1000m2 (-1,744.4% 低下)	80,320円/1000m2	
品質	従来技術と比較して雑草の繁殖を抑制できる。	維持管理として定期的な除草が必要である。	従来技術と比較して、長期間に亘って防草効果を維持できる。
評価	○	-	○
現場条件	・作業スペースとして○m×○m程度必要	・作業スペースとして、1m×1m程度必要となる	・作業スペースとして、1m×1m程度必要となる
設計条件	・固定シートの間隔は1m ・防草シートの重	-	・現場の形状・状態により、使用材料、作業歩掛が変化する場合あり
NETIS番号			QS-200000
備考	○○年耐久、○○系防草シート		
総合評価	○	-	○

【類似技術】

- ・ 類似するNETIS登録技術がある場合、「類似技術の追加」ボタンでNETIS登録番号を入力する。(最大5件)
- ・ 比較表が自動作成される。

【比較表】

- ・ 比較表は自動作成される。
- ・ 類似技術がない場合は「新技術」と「従来技術」のみとする。
- ・ セルに着色(灰色)がない箇所は、「新技術」の記載内容を参考に、項目に沿った事項を記入する。
- ・ 「備考」欄には特徴(メリットなど)を簡潔に記載する。

◆記載例◆ 14.従来技術との比較「根拠資料の入力」

※記載ないものは入力システム内の説明に従い記入してください。

- 1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」
- 2.「分類・区分」
- 3.「キーワード」「開発目標」
- 4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」
- 5.「概要」
- 6.「概要写真」「概要表」
- 7.「新規性及び
- 11.「適用範囲」
- 11-2.「適用される基準」
- 12.「留意事項」
- 13.「従来技術との比較（経済性・工程）」
- 14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
- 15.「その他、技術のアピールポイント等」「新
- 19.「今後の課題と対応計画」
- 20.「施工実績」
- 21.「特許・実用新案」
- 22.「第三者評価・表彰等」
- 23.「実験等実施状況」
- 24.「添付資料」
- 25.「参考文献」
- 26.「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カ

品質	<input checked="" type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	従来技術と比較して雑草の繁殖を抑制できる。	根拠資料の入力
安全性	<input checked="" type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	従来技術と比較して除草作業の縮減により事故の発生リスクが低減できる。	根拠資料の入力



自由項目
(全角)

次頁以降に記入要領
について説明して
いますので、参考にして
ください。

評価項目		大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較（結果）	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技
品質	耐久性（物性）			引張強さ	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
	耐久性（形状）			寸法、単位重量	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
材料	材料			小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
				小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
施工	施工			小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
				小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
完成物	完成物			小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術
				小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術

※「評価項目」、「①現行基準値等」、「③申請技術について実証により確認した数値等」、「④従来技術との比較（結果）」は、NETISで公開されます。

◆記入要領◆

「根拠資料の入力」品質

評価項目			申請者記入欄						備考	
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧基準等の引用もと
品質	耐久性 (物性)	製品強度	〇〇N/mm ² 以上	適合	平均値〇〇N/mm ²	向上 (従来は〇〇N/mm ² 程度)	自社工場による〇〇〇の強度試験による	自社確認	添付4:〇〇圧縮試験成績表	参考3:H24道路標示方書・解説P〇〇
		【記載の留意点】	・強度や特性が確認できる項目とする	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。 ・準拠した数値等がなければ「-」とする。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。	・実験や実証で確認された数値やコメントを記述する。 ・記述内容は添付資料の内容と整合させる。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 ・様式2の品質が向上となっていれば整合させる。	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
品質	耐久性 (形状)	標準形状	---	---	幅:〇〇mm 長さ:〇〇mm 高さ:〇〇mm	比較対象外	リーフレット	自社確認	添付5:リーフレット	---
		【記載の留意点】	・概観の形状や重量等を記述する	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・リーフレット等で確認された数値やコメントを記述する。 ・記述内容は添付資料の内容と整合させる。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 ・従来に該当しないようであれば「比較対象外」とする	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
品質	耐久性 (動力)	機能維持	〇〇年以上(自社基準)	適合	〇〇年〇〇ヶ月経過後も機能を維持している事が確認	同等	〇〇工事の現況状況写真	自社確認	添付6:現況状況写真	参考4:〇〇品質マニュアル
		【記載の留意点】	・耐久性(継続的、長期的)を確認できる項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・耐久性(継続的、長期的)で追跡調査等の結果や、現況の状況が確認できる内容を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
品質	材料	使用材料(〇〇、■■)	---	---	〇〇の材質:〇〇〇〇 ■■の材質:〇〇〇〇	比較対象外	材料ミルシート	〇〇商事 ■■建材	添付7:使用材料ミルシート	---
		【記載の留意点】	・使用されている主材料の品質を確認できる項目とする	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・主材料の品質が確認できる内容を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
品質	施工	〇〇の管理	〇〇である事の確認(自社基準)	適合	〇〇である事を確認	同等	〇〇工事の品質管理資料	〇〇建設	添付8:〇〇工事の品質管理資料	参考4:〇〇品質マニュアル
		【記載の留意点】	・施工中に行わなければならない品質管理等の項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・実際に管理した内容、数値等を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された工事名や条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された社名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
品質	完成物	出来形管理	〇〇mm以内	適合	最大値が〇〇で〇〇以内である事が確認	同等	〇〇工事の出来形管理資料	〇〇建設	添付9:〇〇工事の出来形管理資料	参考5:九州地方整備局H23出来形管理基準および規格値
		【記載の留意点】	・完成物としてどんな書類があるかを記述する。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・実際に管理した内容、数値等を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された工事名や条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された社名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。

◆記入要領◆

「根拠資料の入力」安全性

評価項目			申請者記入欄							備考
大	中	小	①現行基準等	②現行基準との比較結果	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較結果	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧基準等の引用もと
安全性	構造	製品の売りを記載 (技術の成立性等の内容とする)	---	---	〇〇が〇〇していることを確認	向上 (従来は〇〇や〇〇の恐れがある)	〇〇の確認試験より	〇〇工業試験場	添付2:〇〇確認試験報告書	---
		<ul style="list-style-type: none"> ・技術の売りや成立性を項目立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・準拠した基準等があれば数値やコメント等を記述する。 ・準拠した数値がなければ「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や実証で確認された数値やコメントを記述する。 ・記述内容は添付資料の内容と整合させる。 ・様式2の「活用の効果」で向上となっている項目(品質、安全性、施工性)の裏付けを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。 ・添付のコピーは表紙も含めて添付する。
※労働安全衛生法上の安全性等は含まない。	施工段階	作業員事故の発生	土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」	適合	事故なし	同等	〇〇工事他〇件の施工実績より	自社確認	添付3:施工実績一覧表	参考2:土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」
		<ul style="list-style-type: none"> ・現場の施工がある場合に作業員事故の発生有無を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」その対象の章を記載する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③で事故なしであれば適合とし、事故があれば不適合とする。 ・①で「-」であれば「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故なし又は事故ありを記述し、事故ありは理由を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の記述が確認された施工実績の件数を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工実績を確認されている社名等を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①の土木工事安全施工技術指針で対象の章をコピーし参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
※仮設工については施工段階の安全性は含まない。		第三者事故の発生	土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」	適合	事故なし	同等	〇〇工事他〇件の施工実績より	自社確認	添付3:施工実績一覧表	参考2:土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」
		<ul style="list-style-type: none"> ・現場の施工がある場合に第三者事故の発生有無を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」その対象の章を記載する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③で事故なしであれば適合とし、事故があれば不適合とする。 ・①で「-」であれば「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故なし又は事故ありを記述し、事故ありは理由を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の記述が確認された施工実績の件数を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工実績を確認されている社名等を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①の土木工事安全施工技術指針で対象の章をコピーし参考資料として添付し番号、資料名を記述する。

◆記入要領◆

「根拠資料の入力」施工性

評価項目			申請者記入欄							備考
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧基準値等の引用もと
施工性	合理化	工程	---	---	1日/100m ²	向上 (従来は2日/100m ²)	コンクリート床版100㎡の比較工程表	自社確認	添付10:比較工程表	---
		【記載の留意点】	・工程や製作日数等の項目とする。 ・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。 ・準拠した数値等がなければ「-」とする。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。	・様式2の工程で記述した日数を記述する。	・様式2の工程で記述した日数を記述する。 ・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・工程を算出した根拠の条件や資料を記述する。	・③、④の数値等が確認された社名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。 ・添付のコピーは表紙も含めて添付する。
現場条件	現場条件	現場条件	---	---	作業スペースとして○○m×○○m程度必要	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○○施工マニュアル	---
		【記載の留意点】	・現場条件とし、他に条件があれば記述可能である。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・様式2の現場条件を記述し、その他条件があれば記述可能である。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・現場条件の根拠や条件が記載されている資料を記述する。	・③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
適用範囲	適用可能な範囲	適用可能な範囲	---	---	コンクリート床版	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○○施工マニュアル	---
		【記載の留意点】	・適用可能な範囲とし、他に適用範囲等があれば記述可能である。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・様式2の適用可能な範囲を記述し、その他適用範囲があれば記述可能である。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・適用可能な範囲の根拠や条件が記載されている資料を記述する。	・③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
自然条件	自然条件	自然条件	---	---	4℃~40℃	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○○施工マニュアル	---
		【記載の留意点】	・自然条件とし、他に条件があれば記述可能である。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・様式2の自然条件を記述し、その他条件があれば記述可能である。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・自然条件の根拠や条件が記載されている資料を記述する。	・③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
施工管理	〇〇の管理頻度	1径間あたり〇箇所(自社基準)	適合	1径間あたり〇箇所の確認	同等	〇〇工事の品質管理資料	〇〇建設	添付8:〇〇工事の品質管理資料	参考4:〇〇〇品質マニュアル	
		【記載の留意点】	・上記の品質・出来形の「施工」で記述した項目の管理頻度とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・実際に管理した頻度等を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された工事名や条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された社名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。
熟練度	熟練工への依存度	熟練工への依存度	---	---	専門技術者は不要で普通作業員で施工可能	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○○施工マニュアル	---
		【記載の留意点】	・熟練工の依存度とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・専門技術者や何かの有資格者でなければ施工できないのかを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③で専門技術者や有資格者が必要とする根拠が記載された資料を記述する。	・③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。

◆記入要領◆

「根拠資料の入力」環境・その他自由設定

評価項目			申請者記入欄							備考
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧基準値等の引用もと
環境	社会環境	環境に影響する有害性	---	---	環境に影響する有害性はない	同等	安全データシート	自社確認	添付12:安全データシート	---
【記載の留意点】		・環境に関する項目とする。 ・(例)水質、土壌、大気、振動・騒音、リサイクル、等の項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。 ・準拠した数値等がなければ「-」とする。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。	・無害である内容を記述する。また、振動・騒音であれば数値を記述し、リサイクルであれば、リサイクルの具体的な内容を記述する。 ・様式2で「環境」が向上となっていれば、その裏付けを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③を確認できる資料(MSDS)等の名称や、試験の条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。 ・添付のコピーは表紙も含めて添付する。
	作業員環境	作業員への負荷程度について	---	---	製品が軽量で作業が容易	向上(従来は重量が〇〇kgで作業が重労働であった)	施工マニュアル	自社確認	添付11:〇〇施工マニュアル	---
【記載の留意点】		・作業員の作業環境や施工性に関する項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・作業環境や施工性について記述する。 ・様式2で「施工性」が向上となっていれば、その裏付けを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③を確認できる資料等の名称や、試験の条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
その他自由設定 (例)品質・出来形(完了後〇〇年経過後)	完成物	美観	〇〇年経過後においても構造物の美観を維持する。	適合	完成から〇〇年経過後でも△△部にひび割れが無く、美観は保たれている事を確認した。	向上(従来技術は〇〇年経過後には△△部にひび割れが発生)	〇件の施工実績より	自社確認	添付13:現地確認結果一覧表	自社基準
【記載の留意点】	大、中項目は任意に設定する。	・技術特性に応じた新たな項目を設定する。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・美観を維持している内容を記載する。 ・様式2で「完成後の美観」といった記載があれば、その裏付けを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③を確認できる資料(MSDS)等の名称や、試験の条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
その他(自由設定) *申請内容を踏まえ評価項目を設定下さい										
【記載の留意点】	大、中項目は任意に設定する。									